

第1号議案 2020年度事業報告について

1. 本部事業報告	P1-2
2. 平塚保育園事業報告	P1-3
3. 柳町保育園事業報告	P1-4
4. 明石町保育園事業報告	P1-5
5. 横内保育園事業報告	P1-6
6. 高村保育園事業報告	P1-7
7. 錦町保育園あねら事業報告	P1-8
8. つどいの広場『もこもこ』事業報告	P1-9
9. 放課後児童クラブ事業報告	P1-10
10. こども発達相談センター・ベンチ事業報告	P1-11
11. 自立支援事業所あやとり事業報告	P1-12
12. 自立支援事業所かっぱどっこり事業報告	P1-13
13. 下宿屋・下宿屋寒川事業報告	P1-14
14. ヘルパー事業所轍事業報告	P1-15
15. 子ども健全育成推進事業報告	P1-16
16. 収益事業事業報告	P1-17
17. 各事業所行事報告	P1-18

2020年度 本部事業報告

1. 概況

2020年度は、コロナ禍により大きな影響を受けた事業所がある。放課後児童クラブでは、親のリモートワーク等により利用児が大幅に減った。子ども発達相談センター・ベンチでは、「平塚市こども家庭課くれよん」の休止により新規利用者が入らなく、既存利用者も通所を避ける傾向がみられた。かっぱどっくりでは、パン販売のイベントが軒並み中止となり売り上げの大幅減となった。ヘルパー事業所轍では、移動が制限される中、余暇支援の需要が全く無くなった。

明石町を除く保育所4園の県による指導監査、法人本部の県による指導監査、小規模保育所の市による指導監査が行われ、細かな点の指摘を受け経営に生かすことができた。

2. 事業の実績

(1) 理事会・評議員会の開催

2020年6月9日【決算理事会】2019年度事業報告及び決算、社会福祉充実残額、繰入金積立金、もこもこ移転、あねら園定員変更、評議員会の開催

2020年6月25日【決算評議員会】2019年度事業報告及び決算、社会福祉充実残額

2020年6月25日【理事長選任理事会】理事長選任

2020年11月17日【補正予算理事会】事業所概況報告、第1次補正予算、経理規定改訂

2021年3月16日【予算理事会】事業所概況報告、第2次補正予算、2021年度事業計画及び予算、役員等選任、評議員選任解任委員補充

3. 事業の重点結果

(1) 障がい福祉事業の計画策定

中長期計画策定は、新型コロナの影響により中断していたが、3月26日を最終とし第1回目を完了した。内部監査は担当も変え例年通り実施した。

(2) 会計ソフトのクラウド化

会計ソフトのクラウド化を行った。会計士の先生もオフィスからログインできるようになり、現場の事務職員も現場からアクセスできるようになり効率が向上した。

(3) 法人研修の継続

法人研修（BCP）に関しては、実施できていない。

4. 施設・設備の整備結果

- ・【建物】もこもこ移転工事（12,372千円）
- ・【構築物】診療所前面道路切下げ工事（1,210千円）

2020年度 平塚保育園事業報告

1. 概況

2020年度は、138名（102％）での開始となった。2019年度の140名（103％）よりも少ない開始であったが、3月には、143名（105％）となる。10月より育休をとっていた保育士が戻った。

2. 事業の実績

（1）利用実績（定員：135名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
0歳児(人)	7			7	8	9	11			12		
総数(人)	138			139	140	140	142			143		
入所率(%)	102			102	102	103	105			105		

（2）延長保育、一時預かり事業、病後児保育事業の実績

延長保育は、2019年度832千円、2020年度は513千円と減少した。

一時預かり事業の児童数は、2019年度270名、2020年度174名と減少した。

病後児保育事業の利用者は、2019年度270名、2020年度107名と減少した。

コロナウィルス感染症により在宅での勤務となった保護者が多く、延長保育や病後児保育の利用に影響を与えていると思われる。一時預かりも、緊急事態宣言時には受け入れを制限していたこともあり減少となっている。

3. 事業の重点結果

（1）業務内容の見直し、保育の質向上

2020年度は、新ICTシステム（コドモン）を試行したことにより、書類負担、業務の軽減につながった。また、写真を使用した記録（ドキュメンテーション）により保護者や職員同士での保育の共有がしやすくなり、保育の振り返りにも活用できている。

（2）送迎時の駐車対策

自動車での登園から自転車に切り替えをする保護者も増え、車での送迎が減少している。天候不順の時には園から注意喚起をすることにより、近隣からの苦情もなくなっている。今後も、保護者への注意喚起は続けながら、近隣への配慮を行っていく。

4. 施設・設備の整備結果

- ・【器具備品】掃除機（500千円2台）、おむつ交換台（203千円）、クリスタルイオン（231千円）、園児用食器（140千円）
- ・【建物】2階3階テラス床張り替え工事（385千円）、非常通報装置交換（374千円）、園前通路切り崩し工事（2,805千円）、天井埋込型全熱交換機設置工事（211千円）
- ・【修繕】ライスロボ修理（440千円）、給水ポンプ修理（301千円）
- ・【業務委託】地下排水清掃（143千円）

2020年度 柳町保育園事業報告

1. 概況

2020年度は、0歳児7名、1歳児18名、2歳児21名、3歳児23名、4歳児21名、5歳児21名の111名、入所率が100%でのスタートであった。3月には入所率が108%(119名)に達した。

2. 事業の実績

(1) 利用実績 (定員：110名)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
0歳児	7	6	7	8		9	10		12	14		
総人数	111	109	110	110	110	112	113	113	115	117	119	119
入所率	100	99	100			101	102	102	104	106	108	

2020年度は定員を割ることなくスタートしたが、5月にコロナが影響した退所があり定員を割った。6月に1人、7月に2人非常勤職員を採用し、6～10月にかけて0歳児を1人ずつの入所を行った。11月に1人常勤職員が育休復帰し、12、1月0歳児を2人ずつの入所を行った。

(2) 延長保育事業・一時預かり事業の実績

延長保育は、利用児童数は2019年度が72名1,265千円、2020年度は56名631千円となった。
一時預かりは、利用児童数は2019年度が61名105千円、2020年度は31名99千円となった。

3. 事業の重点結果

(1) 組織強化

年度後半、常勤職員の育休復帰を機に副主任をフリー化したことで、園長・主任・副主任での対話を増やすことができ、保育観の共有と組織強化のための人材育成の方向性について話し合いを重ねた。これにより、副主任が現場で若手保育士の悩みや疑問等の相談にすぐ対応することで、理解不足のまま子どもに関わるものが減った。副主任の周りに若手が集まり、話し合う様子も見られるようになった。

(2) 人材育成と保育の質向上

主任・副主任が保育ドキュメンテーションを通して保育士と話をし、会議等で事例検討を行った。しかし、保育士は自分の保育観に慣れ、子どもの姿に着目することへの理解が乏しかった。2021年度は、個人の保育観でなく保育士全員がチームとして統一した保育観を共有していく。

(3) コドモン

乳児の連絡ノートのアプリへの一斉配信が可能になったことで、乳児クラスの職員同士の対話や短時間パートも参加出来る話し合いの時間を確保できた。写真付きの連絡は保護者にも好評で情報の共有がしやすくなった。また、コロナで対面研修は減ってしまったものの、それに代わるオンライン研修を受ける時間確保も可能となった。

4. 施設・設備の整備結果

- ・【建物】園庭、足洗い場改修工事(1,155千円)
- ・【器具備品】水式クリーナーの購入(250千円)、電話増設(308千円)、ミニクローラの購入(250千円)

2020年度 明石町保育園事業報告

1. 概況

2020年度は、入所児数100名（111％）でのスタートであった。

1歳児～5歳児クラスは、クラス定員（各クラス15名）を超えた入所となっているため、年度途中での入所は0歳児のみとし、5月、7月、8月にそれぞれ1名ずつ、11月に3名、2月に2名、3月に1名を受け入れ、最終入所児数は合計109名（121％）となった。

2. 事業の実績

（1）利用実績（定員：90名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
0歳児(人)	6	7	8	9	12	14	15					
総数(人)	100	101	102	103	106	108	109					
入所率(%)	111	112	113	114	117	120	121					

（2）延長保育事業の実績（千円）

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
利用料	1,021	736	494	390

3. 事業の重点結果

（1）勤務体制

登園時間が早い児が多いため、朝の時間帯に保育士を多く配置する必要があるため、夕方の時間帯については、各当番帯に30分ずつの超勤をつけて対応した。一方で、清掃や消毒など保育以外の雑務にかかる超勤については、学生アルバイトの雇用によりかなり減少し、勤務の負担軽減につながった。

（2）保育ICTシステムの導入

コドモン（保育ドキュメンテーション）の試行により、週日案・日誌・連絡帳・掲示物が一括で作成でき、保育の質を落とすことなく業務を効率化し負担を軽減することができた。また、子ども達の遊びが展開していく様子を写真(掲示)や動画(配信)で保護者と共有することができ、園児の活動方法に対する保育士の意図や保育のプロセスを伝える手段となり、園の方針や保育士への理解を深める機会とすることができた。

4. 施設・設備の整備結果

- ・【器具備品】次亜塩素酸水生成機（274千円）、水式クリーナー掃除機（250千円）
- ・【建物】非常通報装置交換（400千円）、スロープ切下げ工事（1,078千円）
- ・【修繕】乳幼児トイレ修繕（1,613千円）、水栓レバー取替工事（172千円）、ヨーグルトメーカー部品交換修理（104千円）、LANケーブル配管工事（110千円）、避難用滑り台門扉修繕（214千円）
- ・【消耗器具】幼児室間仕切り棚（308千円）
- ・【保育材料】幼児用椅子50脚（547千円）

2020年度 横内保育園事業報告

1. 概況

2020年度は、4月の入所率が103%(93名)で始まり、3月では入所率106%(96名)となった。4月、5月の緊急事態宣言下では、通常開所するも3割～4割の園児数で、保育を継続した。

2. 事業の実績

(1) 利用実績 (定員：90人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	5	5	5	7	5	6	6	8	9	9	10	11
総児童数	93	93	94	96	93	94	94	96	97	95	95	96

(2) 延長保育事業、一時預かり保育事業の実績

延長保育は、2018年度411千円、2019年度200千円、2020年度123千円。延長利用者は少なく、またコロナの影響もあり収入減となる。

一時預かり保育は、2018年度204千円、2019年度148千円、2020年度212千円。年度途中で退園した園児が、3月まで一時預かりで継続したため、若干の増収に繋がった。

3. 事業の重点結果

(1) 人材育成

自園の課題を明確化し、保育園運営のための即戦力になる人材育成を継続していく必要がある。2020年度は、まずは主任と副主任間の意思の疎通を図ることを重点におき、テーマを用意し、主任と副主任で議論する場を多く設けた。

コドモンのドキュメンテーションを中心に、リモート研修を受け、遊びや生活の中での学びについて考えることで、保育者の「子どもの興味・関心をとらえる視点」を育てられるよう、保育者間で話合いの場を持ち、子どもの理解を深めながら人材の育成に繋げている。

(2) 家庭との連携

日本人も外国人も関係なく、誰もがいきいきと心豊かに、安心・安全に生活できるように、登降園時の保護者への声かけや、iPadで写真や動画を用いながら、保護者にかわりやすく保育を提示していく工夫をした。

(3) 人材確保

保育部門として、保育園、法人のHPから求人サイトに応募があり、採用に繋がっている。

4. 施設・設備の整備結果

- ・【器具备品】巧技台(826千円)、セーフティーマット(143千円)、安田式テクノロマン低鉄棒(432千円)、水式イオン発生4台(992千円)、水式掃除機(500千円)
- ・【建物】非常通報装置(400千円)
- ・【修繕】外灯LED照明器具工事(165千円)、調理室手洗い自動水栓(136千円)、室外機修繕(410千円)

2020年度 高村保育園事業報告

1. 概況

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による緊急事態宣言の中でのスタートとなり、母親の復職で入所となった園児のほとんどが、復職が延びたことで登園自粛をされ、実質 6 月より新年度がスタートしたような雰囲気となった。園行事等は大きく見直ししながら、保護者の理解や協力を得て実施していたが、小学生や高齢者施設での交流や開放保育等、外部との交流は制限せざるを得ない状況だった。

2. 事業の実績

(1) 利用実績 (定員 135 名)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
0 歳児(人)	7	9	10	9	10	11	11	12				
総園児(人)	132	134	137	136	137	139	140	143				
入所率(%)	98	99	101	100	101	103	104	106				

定員割れでのスタートとなったが、毎月新入園児を受け入れ、7 月に定員を超えることができた。

(2) 延長保育事業、一時預かり事業の実績

延長保育の利用児童は、実利用人数が 2019 年度 38 人から 2020 年度 36 人とニーズは前年度とほぼ同じであったが、延べ人数は 2019 年度 3,446 人（638 千円）と比較して、2020 年度 2,390 人（638 千円）と減少し、緊急事態宣言時の登園自粛の影響が反映された。前年度同様、「1 日 30 分以上の利用児童数が 6 人以上を満たしていない」ため補助対象にならず、事業としては厳しい状況だった。一時預かり保育の利用児童数は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため休んだり、必要最小限の利用にとどめていただいたりしたため、2019 年度延べ 322 人（1,186 千円）と比較して、2020 年度は延べ 190 人（535 千円）と激減した。

3. 事業の重点結果

(1) 勤務体制の見直しと人材育成

乳児については副主任をクラス編成から外し、フリーにすることができ、クラスごとの課題と一緒に取り組んだり、他クラス同士で共有できたりするような役割を担うことができた。次年度は幼児の副主任のフリー化もすすめ、保育士の育成や働きやすい職場作りにつなげたい。

パート職員の働き方を見直し、パート職員が休んでも欠員にならないような配置が組めたことで、パート職員も働きやすくなり、また急な休みへの対応もなくなった。

事務員の子育て支援員研修は、新型コロナウイルスの感染拡大により、見合わせた。

4. 施設・設備の整備結果

- ・【器具備品】水式空気清浄機（400 千円）、水式クリーナー（250 千円）、電解次亜水生成器（270 千円）、乳児室内用運動遊具（197 千円）
- ・【建物】追加工事（6,000 千円）、外構フェンスの架け替え（2,200 千円）

2020年度 錦町保育園あねら事業報告

1. 概況

2020年度は入所率73%の開始となり、0歳児が6月になっても0人が続き、2019年度の開設時の時点で0歳児2名を下回った。0歳児の待機児童減少や1歳児の待機児童増加を考え、8月に各年齢の定員変更。9月に定員19名（100%）に達した。3歳児への進級に向けて、早めに連携園への慣らし保育をすすめてきたことで2歳児3名をスムーズに連携園へつなげることができた。その他は幼稚園へ入園した。

2. 事業の実績

(1) 利用実績（定員：19名）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
0歳児	0			1	2	3						
総数(人)	14			15	18	19						
入所率(%)	73			78	94	100						

3. 事業の重点結果

(1) 保育の質の状況、保育士育成

子どもの観方について園長・リーダーが保育士へ伝えていくことにより、子どもの育ちを身体や心の多方面からの視点で捉え保育するようになってきた。また、CoDMON導入により、前記の補助にもなり、職員全員がドキュメンテーションを通じて子どもの観方や育ちを共有し、互いが学び合うツールになった。業務の簡素化にもつながり、子どもと向き合う時間が増えてきた。

(2) 危機管理体制

2020年度当初は、判断ミス、認知不足、連絡不足というような人的ミスが多かった。ヒヤリハット、ケガ記録簿は、その場の解決策で終わっていた。11月くらいからリーダー達とケガの原因を様々な角度から考察するようにしてきたことにより、職員が記すケガの改善点に変化が見られるようになり、12月位からケガや噛みつきが減少した。同時期に安全対策による外部研修（リモート）と園内研修とで安全管理能力を高まってきたことも相まって、ケガの減少につながった。

4. 施設・設備の整備結果

・【器具備品】イオン空気清浄機（660 千円）（コロナ補助金）、水掃除機（500 千円）（コロナ補助金）

2020年度 つどいの広場『もこもこ』事業報告

1. 概況

市役所からの要請で2019年3月2日より、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に閉所し、引き続き4月からも緊急事態宣言が発令され、継続閉所した。6月15日の緊急事態宣言解除にともない、再開した。

6月29、30日は、つどいの広場移転の為に閉所し、7月1日から新施設にて開所した。

2. 事業の実績

(1) 利用実績

2019年度 7,314人(307組)

2020年度 3,180人(152組)(6月15日～)

※5月から市の要請により子育て等の電話相談を実施。(火・金、10～15時)相談実績0件

3. 事業の重点結果

(1) コロナ禍での利用方法

- ・保護者のマスクの着用、検温、手洗いをしてから利用をお願いした。

【利用時間】

10:00～12:00 開所(12:00～13:00 清掃・消毒のため閉所・ランチタイム中止)

13:00～15:00 開所

【利用定員】

6組12人 1日1回の利用 子ども1人に対して保護者も1人

(2) 清掃・消毒

- ・閉所後各2回清掃、消毒を徹底しておこなった。

遊具の量を減らし、消毒が可能なおもちゃ、絵本を用意した。

(3) イベントは、市からの要請で中止とした。

(4) 子育て広場連絡会は中止となった。

4. 施設・設備の整備結果

- ・施設移転工事

2020年度 放課後児童クラブ事業報告

1. 概況

2020年度は、「せんげん放課後児童クラブ」の開設に伴い、各施設が適切な利用児童数（1支援の単位が概ね40人）に近づく形となり、放課後の子どもたちへの支援には、よい形（児童のパーソナルスペース・児童と支援員との関係性）となる。

また、各担当者会議では放課後児童クラブ「運営指針」を読み込むことで、放課後児童クラブの在り方、今後の方向性を考えるにあたりよいものとなった。

2. 事業の実績

（1）利用実績

	2019年4月	2020年3月	2020年4月	2021年3月	2021年4月
そうぜん第一	48	38	35	22	25
そうぜん第二	45	39	35	24	30
みやのまえ	55	48	59	40	43
せんげん			31	24	26
まつばら	55	49	50	42	44
合計	203	174	210	152	168

（2）支援の実績

新型コロナの影響による保護者の就労形態状況の変化が、子どもたちの放課後生活に影響が見られた。特に中・高学年等は一人留守番による、退所となるケースが多くみられた。

そのため、各学童では小規模のイベントは進行しやすかったものの反面、子どもたちのリーダー不足となった。生活面や行事等の子ども社会の構築が、年度の後半で、例年より進まないというマイナス面が見られた。

3. 事業の重点結果

（1）職員研修

感染予防もあり、施設間合同での研修を控えざるを得なかった。

各施設、図書コーナーがあり絵本等が設置してある。意味あるものとする為、絵本読み聞かせ講師を招き、絵本の魅力等の講義をしていただき、児童への有効利用を考える機会とした。

（2）運営指針の読込

2021年度に向け、各担当が運営指針の読み込み作業をしつつ各学童の支援状況や支援課題を見つけ次年度につなげる話し合いを行った。

（3）新型コロナ感染予防対策品の導入

手洗い・手指消毒・換気・マスク着・アルコール消毒等の他、次のものの導入をした。二酸化炭素チェッカー購入、自動アルコール手指消毒機設置(青少年課より)、赤外線体温計測機(青少年課より)

2020年度 こども発達相談センター・ベンチ事業報告

1. 概況

2020年度、登録数は児童発達支援（児発：未就学児）16名と放課後等デイサービス（放デイ：小学生）25名の計41名。新型コロナウイルスによる緊急事態宣言下であり、稼働率32%でスタートした。年度末には児発20名と放デイ27名の計47名、年度末には稼働率83%となったが、年間の平均稼働率は69.4%であった（昨年度73.1%）。

2. 事業の実績

（1）利用実績（収入実績：千円）（定員：10名）（年平均利用率：69.4%）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
登録数（名）	41	41	43	42	41	43	45	45	47	47	47	47
稼働率（%）	32	51	65	73	63	78	72	77	83	74	82	83

5月25日の緊急事態宣言解除後の6月から3月までの平均稼働率は75%となり、徐々に回復傾向がみられている。

3. 事業の重点結果

（1）利用率の向上

利用率の向上に向け、定員に対し100%の登録者数の確保を目指していたが、88%に留まる結果となった。これはコロナ禍で『平塚市こども家庭課くれよん』の経過観察グループが休止し、グループ終了後に見込まれた新規入所が得られなかったことが影響した。

（2）業務の合理化

言語療法を元にした「ことばクイズ」のプログラムを導入するなど療育内容の見直し・充実を図った。また、職員全員が共通視点を持って評価に取り組めるようアセスメント書式をマニュアル化した。その他、紙媒体で行っていた保護者へのお知らせを電子メールで一斉配信することで業務の簡素化・迅速化を図った。

（3）地域・他部門との連携

神奈川県シルバー人材センター連合会主催の「学童保育補助スタッフ養成講習会」に演者として参加した。

法人保育園と並行通所をしている利用者のミニカンファレンスの場を設けるなど、地域・他部門と連携を図ることができた。

小学校・園訪問はコロナ禍の自粛もあり、前年の半分の4カ所であった。

4. 施設・設備の整備結果

・【器具备品】抗菌マット（150千円）

2020年度 自立支援事業所あやとり事業報告

1. 概況

2020年度は、登録者数22（新規契約者1名）で事業を開始した。年度途中に4名が新規契約し、退所者は6名（うち2名は新型コロナの影響、2名は不調、2名は他事業所への移動）、3月末現在契約者数は20名となった。

2. 事業の実績

（1）利用実績（定員：20名）※利用率＝月間のべ利用者数／定員×開所日数

対象月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
契約者数(人)	22	22	21	21	21	20	20	20	20	21	21	20
開所日数(日)	22	19	23	22	21	21	22	20	21	20	19	24
利用率※	59	70	83	83	75	87	90	81	89	88	87	85

年間平均利用率は82.2%であった。4～5月の利用率の低値は新型コロナによる緊急事態宣言を受け一部利用者の利用差しひかえがあったことによるもの。

日中一時支援利用者は、年間延べ195名（2019年275名）だった。

3. 事業の重点結果

（1）利用者の確保

利用者の登録数は2名減となった。退所者のうち新型コロナの影響による者は2名だった。

（2）利用者の工賃向上計画に基づく工賃のアップ

コロナ感染を考慮した利用の差しひかえや、市場の動向に合わせた軽作業の減少等厳しい状況があったが、利用日数の少ない利用者の退所等の影響もあり、当初の目標以上の工賃アップにつながった。

年平均工賃月額10,617円。

（3）利用者へのサービス内容の向上（他施設等との連携を図る）

コロナの影響を考慮した対応が求められた。利用を控えた利用者への定期的な連絡の実施、マスク装着やソーシャルディスタンスの推進、毎日の消毒作業等を行った。

相談支援事業所との連携に基づく支援を行い利用者の確保に結びついた。就労援助センターとは可能な範囲で連携を行ったが、就職者はいなかった。

4. 施設・設備の整備結果

- ・【器具備品】水式クリーナー（250千円、コロナ補助金）、水式空気清浄器（200千円、コロナ補助金）
- ・【修繕】トイレ修繕（423千円）、トイレ床張替（394千円）。避難滑り台門扉（214千円）

2020年度 自立支援事業所かっぱどっこり事業報告

1. 概況

2020年度は、就労継続支援B型(就B)は前年度より新規利用者1名が加わり計18名/定員20名でのスタートとなり、途中、新たに利用者1名を加えて計19名で終えた。就労定着支援は2名が利用期間終了となり、利用者は1名となったが、毎月定期的に相談支援を実施した。

2. 事業の実績

(1) 利用実績 ※利用率＝月間延べ利用者数÷(開所日×定員)×100

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
就B(定員20名)	利用者数	18	18	18	18	18	18	19	19	19	19	19	19
	利用率	66	71	70	72	70	70	76	77	76	74	69	67
就労定着支援	相談回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

(2) 生産活動の実績

2020年度の就労支援事業収入は7,367千円となり、前年度収益8,903千円より約150万円減収となった。2019年1月から続く、コロナ感染予防対策による各イベントの自粛や販路先の一時休業等が影響しており、製パン作業の売り上げが大幅に減収する結果となった。清掃作業については、委託施設の休業中も清掃活動は継続されたため影響はなかった。

3. 事業の重点結果

(1) 利用者の確保

実習に関しては、コロナ禍の影響もあり後期に2名の受け入れに留まり、うち1名が10月より新規利用につながった。近隣中学校の特別支援級による職場体験も、2020年度はすべて中止となった。2021年度はコロナ禍の情勢を見守りながら再開時期を各学校と調整していきたい。

(2) 作業工賃の維持

2020年度の平均工賃月額額は12,349円となり、前年度の13,233円を下回る結果となった。これは一部の利用者が感染予防のため、自主的に欠席や遅刻を行なったことが主な要因となった。

(3) 非常災害対策計画の作成

かねてより懸案となっていた非常災害対策計画を作成して、立地的に想定される災害の絞り込み、災害ごとに検討した避難場所、最低限行動すべき項目の行動手順フローチャートを記載して周知徹底を図った。

4. 施設・設備の整備結果

- ・【器具備品】洗濯機(141千円)

2020年度 下宿屋・下宿屋寒川事業報告

1. 概況

下宿屋では、10月と3月に新たに男性1名の入居が決まり満室になった。その後、1名が2021年5月よりアパートでの一人暮らしを始めている。新型コロナウイルス感染の影響により、入居者2名の勤務先の飲食店が休業に追い込まれたが、2名とも無事に再就職を果たすことが出来ている。

2月から3月にかけて2週間おきに計3回職員全員にPCR検査を行い、いずれも全員陰性が確認されている。入居者は体温が安定しない者が数名おり、そのうち3名が発熱によりPCR検査を受けたが、いずれも陰性だった。

2. 事業の実績

(1) 入居者概況（入居者数は体験利用を含む） <利用率＝月間延べ利用日数÷（定員×暦日数）>

	月	定員	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
下宿屋 2019	入居者数	19	19	18	17	17	17	17	17	18	18	19	19	19
	利用率(%)		89	88	89	88	87	88	89	89	88	88	88	88
下宿屋 2020	入居者数	19	19	18	18	17	19	17	19	20	18	18	18	19
	利用率(%)		89	88	91	88	89	88	93	95	92	91	93	96
寒川 2019	入居者数	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	利用率(%)		83	83	83	83	82	82	83	80	83	81	83	83
寒川 2020	入居者数	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	利用率(%)		83	83	83	83	83	83	83	83	83	81	83	82

3月末の在籍数（体験除く）は下宿屋19名/19名、寒川5名/6名

3. 事業の重点結果

(1) 定員の充足

10月28日より下宿屋に男性1名、3月22日より男性1名の入居が決まり下宿屋は満室になった。直近では5月に1名が退居し、5月1日現在下宿屋の欠員が1人。下宿屋寒川の欠員1人となった。

(2) 職員体制の維持

世話人の非常勤職員を募集しているが、応募がない状態が続いている。短時間パートの生活支援員については、高齢のために体調を崩す者が目立つようになり、4月までに新規で2名を採用した。

(3) 新たな事業に向けた検討

コミュニティ香川の賃貸借契約が2022年9月で終了するため、3月に移転先の物件探しを開始している。合わせて、神奈川県障害サービス課と協議を開始している。

(4) 風水害等による災害時の防災について

防災計画作成の作業を開始している。（2021年度に継続する）

(3) 生活環境の整備（修理、家電製品買い替え）

①仮眠室のエアコンの買い替え、②3階冷蔵庫の買い替え、③雨漏りで天井のボードが破損していた箇所があり、2月に修理をしている。

2020年度 ヘルパー事業所轍事業報告

1. 概況

下宿屋・下宿屋寒川（共同生活援助）とヘルパー事業所轍（居宅介護、移動支援）は利用者の居住と移動をそれぞれ支え、お互いの機能を補って事業を継続してきている。下宿屋・下宿屋寒川の事業では居室の空きは3部屋であるが、生活が自立している利用者が多く、まだ移動支援の利用に結び付いていない。外部の利用率は増えている。移動支援については、不要不急の外出サービスが多い為、2020年3月以降は、大幅減の状態となっている。

2. 事業の実績

（1）2018年度利用実績（時間数） 外部利用率 65%

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
移動支援	264	245	235	218	209	221	222	225	189	226	196	207	222
通院介助	6	8	12	13	13	18	8	11	13	14	8	7	11

（2）2019年度利用実績（時間数） 外部利用率 68%

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
移動支援	262	222	217	221	242	238	259	262	233	231	269	131	232
通院介助	17	10	12	7	9	10	11	9	10	7	9	7	10

（3）2020年度利用実績（時間数） 外部利用率 62%

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
移動支援	87	71	135	143	136	145	146	166	195	158	148	166	141
通院介助	5	11	14	12	6	13	10	18	4	13	5	11	11

3. 事業の重点結果

（1）利用者の確保

下宿屋の入居者が増え、それによって内部（下宿屋利用者）の利用率が伸びた。

2020年度 子ども健全育成推進事業報告

1. 概況

【平塚市学習サポート】

子どもの貧困率(17歳以下)は13.5%であり、「子どもの貧困対策の推進に関する法律」に学習支援等の施策がある。本事業は生活困窮世帯中学生を対象に、2013年度から平塚市の委託を受け8年を経過した。2020年度は新型コロナにより5月まで休講し、環境整備や学生指導員研修などの対策をして開設した。

生徒にとっては、年齢の近い大学生の指導や休憩時の法人からの飲食物提供の中でのコミュニケーションなどにおいて良好な関係づくりが進んだ。

【あすなろ（二宮教室）】

2016年11月より県平塚保健福祉事務所より受託(受託時参加者2名)した当該事業は、参加者が漸増し、2020年度は受入計画人員6名を越える参加者10名(登録12名)が支援を受けている。毎週木曜午後5時から午後8時まで二宮町町民センターにおいて45回開催を計画し、教職退職者7名と学生3名が支援にあたっている。

2. 事業の実績

(1) 学習サポート

コロナ禍の影響で前年度比26人減の43人の生徒の参加となった。生徒数減に伴い、8月を増やし、3年生に加えて2年生について9月から生徒一人当たり週2回の実施とした。

市の補正予算により生徒自ら学習できるタブレット端末を25台購入し、インターネット利用「人工知能型教材キュビナ(Qubena)」を11月から生徒利用ができるように20台×月2,000円の契約をし、コロナ禍で休講した1月中旬から公立高校入学試験直前まで3年生と不登校生に貸し出し、家庭学習の手助けに役立てた。

(2) あすなろ教室

学習支援開催日数は2月初め現在28回。新型コロナウイルスの緊急事態宣言による学校の一斉休業のため4月5月の8回は教室も休業とした。また、1月14日からは感染予防対策のための教室を休業とした。そのため、2月初め現在までに28回開催し単純出席率53%(10回以上参加者の単純出席率73%)となり教室の需要は高いレベルにある。

居場所づくり事業としてのサマーイベントは新型コロナのため中止した。年末のイベントは、調理と会食のイベントから、カップケーキを持ち帰り家族の会食を楽しむイベントに切り替えた。

3. 事業の重点結果

(1) 学習サポート

2020年度は、生徒の心の安定を図るための学生指導員とのコミュニケーションのさらなる構築について学習支援と同じ価値を感じながら進めた。これにより、不登校や配慮すべき症状など様々な生徒が在籍する中、個別指導体制のよさを見出すことができた。

(2) あすなろ教室

小学生の参加拡大に関して、兄妹1組姉弟2組の計3組の参加があった。中学生が小学生をリードし、良い刺激となっている。学生支援者は年度途中から登録3名実働2名が確保された。

2020年度 本部収益事業報告

1. 概況

2016 年 4 月まで診療所事業に供していた建物部分を、2016 年 5 月より賃借することにより本部収益事業を開始した。建物および備品を収益事業に移管し、その対価として借入を本部より起こした。

2. 事業の実績

家賃及び水道光熱費等の実費収入（5,429 千円）に対して必要経費（人件費、事業費、業務委託費、保険料、租税、保守料、及び減価償却費、4,580 千円）を差し引き、収益（849 千円）が発生した。収益は 2,000 千円以内であり、みなし寄付金とみなされ非課税となる。850 千円を社会福祉事業に算入計上（事業区分間繰入金）した。減価償却費分で、本部からの借入金を返還（1,369 千円）した。